

概要

今年は3年に1度の瀬戸内国際芸術祭の開催年であります。小豆島では多くのアーティストによる出展が決まり、国内外からのお客様の来島が予想されます。そのような状況のなか、小豆島観光協会はホームページによる小豆島の比類ない魅力を発信する事業ほか以下の事業をおこないます。

1. 瀬戸内国際芸術祭2019の成功

今年は3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭の開催年にあたる。「海の復権」をテーマにした瀬戸内国際芸術祭の本質を見失うことなく、地元住民、アーティスト、来場者と共に地域の持つ比類ないものにスポットをあて、春会期、夏会期、秋会期をとおした芸術祭の成功を目指す。

2. ホームページによる小豆島の魅力発信

リニューアルする小豆島観光協会ホームページほかFacebook、インスタグラムなどSNSによる電子媒体や紙媒体（パンフレット、マップ）を駆使して、瀬戸内海国立公園という誇るべき観光地を国内外に発信する。また日本語はもとより多言語での広報をおこない、国内外からのお客様の利便性を向上させる。

3. 産業、文化、人と観光を繋げる

小豆島観光協会は観光のほか産業、文化、人に着目し、それぞれを繋ぐ役割を担う。醤油蔵の見学や醤油のブレンド体験、素麺の箸分け体験や実食、オリーブやレモンの収穫体験、農村歌舞伎舞台の見学、八十八ヶ所霊場巡りなど小豆島の歴史ある産業や文化を体験してもらい、小豆島を訪れた人の満足度を更に高める。また、旅行会社や大学などの視察研修を積極的に受け入れ対応する。

4. One Shodoshima 事業の推進

多様な目的を持った来島者を受け入れるためには小豆島が一体となる必要がある。小豆島、広くは瀬戸内という観点を常に持ち、地域の活力を生むために、香川県観光協会、小豆島観光戦略会議、小豆島青年会議所、民間企業ほかとの協働活動を積極的におこなう。また、毎年開催されるツーリズム EXPO などPR イベントに引き続き出展をおこないエリアが一体となった事業を推進する。

5. 国際化の推進と受け入れ態勢の充実

近隣空港の国際線増便、東京オリンピックや大阪万博の開催を見据え、更なる国際化の推進と受け入れ態勢の充実を目指す。そのうえで平成28年2月23日に発足した小豆島観光国際化チームの活動の輪を広げ、行政、民間、協会が三位一体となり小豆島中央高校との共同活動やインバウンド視察等を受け入れる。観光案内や港でのお出迎えとお見送りは来島者に感動を与え、再来訪者の増加に繋がると考える。

6. 自己啓発セミナーと英会話セミナーの開催

毎月開催し50回を数える自己啓発主催セミナー「まるごと小豆島」、瀬戸内国際芸術祭2016の開催前から毎月開催し35回以上を数える英会話セミナー「YOKOSO SHODOSHIMA」は地元の素晴らしさに自らが気づき、国際化対応に向けて学ぶ大切な機会である。セミナーをきっかけに島外からのお客様へ小豆島の魅力を伝えることが幅広く出来るよう継続的に開催する。

7. フィルム・コミッション事業の充実

昭和29年の映画『二十四の瞳』に代表されるように小豆島はメディア業界からの注目度の高い島である。映画、テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、Web動画は魅力を広く発信する重要なコンテンツである。適切な対応からメディア各社との信頼関係が構築され発信はリピート化し波動的なものとなる。また、島民によるエキストラ協力やロケ地の提供による本事業への関わりは小豆島に元気と希望を与えるものと捉える。

8. 食を広める

小豆島の伝統産業や山海陸の幸のすばらしさを広めるために、様々な形態の飲食店を展開する株式会社平井料理システム社（高松市）や株式会社ワールド・ワン社（神戸市）、JETRO 香川、金融機関ほかと協力してエンドユーザーへ島の食を安心して提供できる関係を作る。小豆島の誇る食に対する多くの人々の再認識が来島者の増加となる。

以上